

社会福祉法人梓友会 法人本部 平成28年度 事業報告

1. 理事会及び評議員会開催状況並びに承認事項

平成28年5月25日 第28-1回理事会・第28-1回評議員会

開催場所：下田東急ホテル会議室

出席：理事7名、監事2名、評議員14名

承認事項：・社会福祉法人の定款変更届出について

- ・平成27年度事業報告（全7拠点）について
- ・平成27年度決算報告について
- ・デイサービスセンターみなとの園運営規程の変更について

平成28年8月24日 第28-2回理事会・第28-2回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事2名、評議員14名

承認事項：・（仮称）特別養護老人ホームエクレシア南伊豆の施設整備に関する借入金（協調融資）の調達方法について

- ・施設長の任免その他重要な人事について
- ・非常勤職員就業規則の変更について

平成28年9月30日 第28-3回理事会・第28-3回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事1名、評議員12名

承認事項：・平成28年度第一次補正予算（全7拠点）について

- ・評議員の選任について

平成28年10月18日 第28-4回理事会・第28-4回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事7名、監事2名、評議員13名

承認事項：・（仮称）特別養護老人ホームエクレシア南伊豆の施設整備に係る入札結果の報告と契約締結について

平成28年12月7日 第28-5回理事会・第28-5回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事2名、評議員12名

承認事項：・事業所内保育事業の開設に関わる承認について

- ・事業所内保育事業の開設に伴う定款変更について
- ・経理規程の変更について
- ・平成28年度第二次補正予算（全8拠点）、当初予算（1拠点）について

- ・監事監査実施規程の制定について
- ・社会福祉法の一部を改正する法律の施行に伴う定款変更について

平成 29 年 1 月 10 日 第 28-6 回理事会・第 28-6 回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 7 名、監事 2 名、評議員 13 名

承認事項：・事業所内保育事業の施行に関する入札について

平成 29 年 2 月 3 日 第 28-7 回理事会・第 28-7 回評議員会

開催場所：サンワーク下田 第 1 会議室

出席：理事 7 名、監事 1 名、評議員 12 名

承認事項：・(仮称) 企業主導型保育事業みくら保育園施行に関する契約締結について

- ・(仮称) 企業主導型保育事業みくら保育園補正予算について
- ・評議員選任・解任委員会の設置及び運営細則について
- ・新評議員候補者の推薦について

平成 29 年 3 月 17 日 第 28-8 回理事会・第 28-8 回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 7 名、監事 1 名、評議員 14 名

承認事項：・平成 28 年度最終補正予算について

- ・(仮称) 特別養護老人ホームエクレスシア南伊豆に係る協調融資の申し込みについて
- ・定款細則の制定について
- ・経理規程及び経理規程細則の一部改定について
- ・給与規程の一部改定について
- ・役員等報酬規程の一部改定について
- ・みくら保育園運営規程の制定について

平成 29 年 3 月 29 日 第 28-9 回理事会・第 28-9 回評議員会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 6 名、監事 2 名、評議員 14 名

承認事項：・平成 29 年度事業計画について

- ・平成 28 年度(仮称) 特別養護老人ホームエクレスシア南伊豆の最終補正予算の変更について
- ・平成 29 年度当初予算について
- ・理事及び監事の選任について

2. ISOの推進

6～10月 内部監査計画に基づき内部監査を実施

3/21.22 ISO第9回サーベイランス審査(審査員：長谷部・津島審査官)

3. 施設長会議

毎月上旬に開催（年間 12 回、四半期に 1 回課長補佐以上が出席）

議 題 数値目標達成状況・運営状況報告（職員配置状況、利用者状況等）、評価・不適合報告、
マネジメントレビュー指示事項対応状況報告、部門目標達成状況報告他
マネジメントレビューの実施（4 月 5 日、10 月 13 日）

4. 経営調整会議

毎月上旬に開催（年間 12 回）

議 題 月次予算実績対比表の報告と分析（イワサキ経営鈴木先生同席）

5. 労使協議会の実施

6/10 第 1 回労使協議会 平成 28 年度夏季一時金、処遇改善交付加算金

11/9 第 2 回労使協議会 平成 28 年度冬季一時金、処遇改善交付加算金

3/7 第 3 回労使協議会 平成 29 年度定期昇給、平成 29 年度一時金

6. 福祉関係団体の各種セミナー参加

全国社会福祉施設経営者協議会、日本経営者団体連盟・社会福祉懇談会研修委員会、
全国社会福祉協議会、全国老人福祉施設協議会、東京経営者協会・新進経営者会、
日本介護経営学会、日本老年社会学会、つしま医療福祉研究財団

7. 静岡県社会福祉法人経営者協議会 東部地区経営協 事務局の運営

6/8 総会・合同研修会

演 題：「社会福祉法人制度の改革について」

講 師：元厚生労働省社会・援護局長 兵庫県立大学大学院経営研究科客員教授
岡田太造氏

会 場：ホテル沼津キャッスル

参加者：125 名

3/2 事務研修会

講 演：「改正社会福祉法の施行における制度改革の概要および今後の社会福祉法人の
対応」

講 師：兵庫県立大学大学院経営研究科 教授 小山秀夫氏

会 場：プラザヴェルデ

参加者：60 名

3/7 静岡県福祉職合同入職式

会 場：ホテル沼津キャッスル

参加者：東部地区の福祉職新規採用者（新卒者）53 名

人材開発室 平成28年度 事業報告

平成28年度 教育研修実績報告

| | 内 容 | 詳 細 |
|----------------------------|--------------------------------|---|
| 新 任 職 員 研 修 | ① 新任職員オリエンテーション | 3月14日～15日 (9期生3名) |
| | ② 新任職員技術研修 | 4月3日～7日 (9期生3名) |
| | ③ OJT教育 | 各所属施設にて (3名) |
| | ④ 8期生フォローアップ研修Ⅰ | 5月20日 (5名) |
| | 8期生フォローアップ研修Ⅱ | 8月25日・26日 (5名) |
| | 8期生フォローアップ研修Ⅲ | 11月25日 (5名) |
| | 7期生フォローアップ研修(2年目研修) | 11月24日 (5名) |
| | ⑤ スキルチェック | 各施設にて |
| | ⑥ 法人オリエンテーション | 第1回 7月20日(4名) 第2回 7月29日(4名) 第3回 10月31日(15名) |
| 内 部 研 修 等 | ① 施設内研修(職員対象) | |
| | ・施設企画1 「平成28年度基本方針」「身体拘束について」 | 梓の里 5月18日 |
| | 「平成28年度基本方針・事業計画について」 | みなとの園 5月 9日 |
| | 「職業倫理について」 | |
| | 「平成28年度基本方針」「倫理及び法令遵守」 | 太陽の里 5月18日 |
| | 「平成28年度基本方針について」「法令遵守」 | みくらの里 5月18日 |
| | ・施設企画2 「食中毒・感染症について」「応急対応について」 | 梓の里 6月15日 |
| | 「感染症・食中毒予防について」 | みなとの園 7月29日 |
| | 「感染症・食中毒予防について」 | 太陽の里 6月 9日 |
| | 「食中毒予防」「皮膚ケア」「外部研修報告」 | みくらの里 7月27日 |
| | ・施設企画3 「感染症について」 | 梓の里 10月28日 |
| | 「感染症・食中毒予防について」 | みなとの園 12月 8日 |
| | 「褥瘡ケアについて」 | 太陽の里 8月31日 |
| | 「感染症について」 | みくらの里 11月11日 |

| | | |
|---------------------|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 本部企画1「コミュニケーションスキル向上による 職場の活性化」 * 4施設合同実施 講師：(株)スターパートナーズ 代表取締役 齋藤 直路 氏 本部企画2「合同発表会」 * 4施設合同実施 | <p>梓の里 10月 7日 みなとの園 //</p> <p>太陽の里 //</p> <p>みくらの里 //</p> <p>梓の里 3月24日 みなとの園 //</p> <p>太陽の里 //</p> <p>みくらの里 //</p> |
| | ② 各施設及び各部署での勉強会 | 各施設・各部署にて実施 |
| | ③ 育成担当者研修 | 8月26日(金) 各施設 8名 |
| | ④ 介護福祉士受験対策講座による資格取得の支援 | 模 試：11月 5日 受講生： 6名 *今年度は短期集中講座の受講希望者が5名以下の ため、模試のみ実施 |
| | ⑤ 内定者フォローアップ研修 | 12月 3日 (平成29年新卒入職予定者3名) |
| | 訪問介護員研修(静岡県委託事業) | 日 程：平成29年1月28日・29日 2月 5日(3日間) 受講生：16名受講中15名修了 |
| 地域 福祉 活動 他 | 出張勉強会(学校訪問) | 10月 4日 稲稗中学校2年(20名) 10月 6日 下田中学校1年(64名) 10月17日 稲生沢中学校2年(46名) 10月24日 下田東中学校3年(37名) |
| | <ul style="list-style-type: none"> 介護の魅力発見セミナー(学校訪問) 静岡県社会福祉人材センターより依頼 就職ガイダンス | <p>5月20日 河津中学校2年(68名) 9月20日 池小学校6年(12名)</p> <p>12月19日 下田高校南伊豆分校 2年</p> |

平成28年度 介護老人福祉施設梓の里 事業報告

| 平成28年度事業計画 | 進捗状況 |
|--|--|
| <p>1. 新たな社会福祉法人の在り方</p> <p>(1)介護/日常生活支援総合事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合事業の内容を地域対象者等に対して周知を行い、円滑な事業運営につなげる。 ・在宅介護支援センターを地域拠点として開放する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合事業に関しては、保険者主催の説明会に出席するなど、情報を収集し、ご利用者・ご家族向けに広報誌を通して周知を図り、円滑な移行、利用につなげることができた。期末時点でご利用者 72 名の内 14 名 (19.4%)が総合事業(第一号通所事業)に移行済みである。 ・支援センター利用に関しては、利用規約の作成が 9 月にずれ込んだものの、近隣の方々より 3 件のご利用を頂き概ね好評であった。併せて、ご家族交流会の開催や、特養ご利用者向けの行事などを実施した。但し、11 月以降は感染症流行のため、外部利用は休止とした。また、下田市在住の方々の作品(写真,造形など)の展示を継続し、面会者やデイご利用の方々の好評を博した。 |
| <p>(2)災害支援体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進展する中、福祉施設の災害時支援体制の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害備蓄品を 5 日分に積み増した他、委託業者との協力により、災害時の食事提供手順の作成を行った。また、災害時緊急避難所機能の付加や、新たな緊急時連絡手段導入の検討に着手した。 |
| <p>2. 人材確保・定着・育成</p> <p>(1)キャリア段位制度の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能力評価選定制度の利用によりスキル上昇とやりがいの充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アセッサー(評価者)の育成を図るとともに、キャリア段位制度で規定されている評価シートを新入職員育成に適用し、順調な成果を上げることができた。 |
| <p>(2)人材確保への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉人材確保の為、様々なネットワークを通して掘り起こしを行うとともに、福祉体験等の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各所に声掛けを行ったところ、職員の紹介を得て、4 名の新規採用につなげることができた。 ・地域 2 学校(稲生沢中学校、稲梓中学校)より高齢者福祉体験学習の一環として生徒 48 名の受入れを行った。また、サマーボランティアとして、3 名の受入を実施した。 |
| <p>(3)ストレスチェック制度の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改正労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度の活用により職場環境の改善と職員の定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本部総務課の設定した手順に沿って、ストレスチェック制度について施設職員への周知を図り、97%の回答(自主提出)を得た。また、産業医の協力により、希望者に対する面談も行った。一方、集団分析の結果、介護職員のストレスが高いとの結果を受け、次年度に状況分析と対策の立案を実施することとした。 |

| 平成28年度事業計画 | 進捗状況 |
|--|---|
| <p>3. 各拠点施設の 経営維持と財務強化</p> <p>(1) 安定した施設経営の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各事業に対し、毎月の数値を分析し、稼働率の管理を徹底する。 • 経費のコスト低減及び委託事業の見直しを行う • 開設28年が経過し大型設備更新も発生しており、各設備の再点検及び修繕・更新の検討を行う。 | <p>進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> • 月次の職員リーダー会議において、前月の稼働状況を開示し、対処の検討を促した。残念ながら特養においては、入院や退去者が多く、総利用日数は対前年比98%となった。一方、短期入所、デイサービスにおいては利用日数の増加を達成した(計443日)。入居者の高齢化、重度化とそれに伴う在所期間の短縮と入退所者数の増加といった環境変化への対応が必要である。 • 特に電気/ガス/重油の利用について対前年比月次データの管理を行い、事務職員が巡回指導する等の措置を行った結果、利用料については、いずれも前年度を下回った。(電気89.4%/ガス82.1%/重油94.4%)。但し、夏冬の酷暑・厳冬の影響により、電気使用量のみ対前年比で微増(102.8%)となった。今後とも管理徹底と致したい。 • 懸案の自家発電装置については、初期見積約950万円に対し、650万円程度にまで削減目途が立ったものの、消防署の実施した設備検査及び自家発電設備定期点検では正常稼働が確認されていることから、検討を継続することとした。一方、デイ車両のリフト故障による買換えを行った。また、平成9年製のチェアインバスの修繕が頻回となり、その更新が課題となっている。 |

介護老人福祉施設みなとの園 平成28年度 事業進捗状況

| 平成28年度事業計画 | 進捗状況 |
|---|---|
| <p>1.新たな社会福祉法人の在り方</p> <p>(1)内部統制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員に対する倫理及び法令遵守の啓発研修(4月)を実施し、また各種会議(毎月)を通して、事故防止、感染症予防、安全運転、防災活動の意識を高める。 <p>また、各部署の目標の明確化とサービスの質の向上を図るため、各部署(全7部門)で設定した部門目標の取り組み等を施設内研修で発表し合う(1月)。</p> <p>(2)社会貢献・地域貢献活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 南伊豆町地域包括支援センターとみなとの園相談センターの協働による認知症カフェを施設内に開設し、地域高齢者に集いの場を提供し、相談員・ケアマネ・栄養士・看護師等の専門職による介護に関する無料相談を行う。それにより、地域貢献を図るとともに地域の福祉・介護ニーズを把握し、新たなサービスを模索する。 <p>(3)公共性・公益性の担保</p> <ul style="list-style-type: none"> たん吸引・経管栄養の必要なご利用者の受入れ体制の確立を行うことにより、幅広い利用者に対する安全・安心を提供するとともに関係医療機関・自治体・他事業所等との連携を強化し、地域包括ケアシステムの構築に寄与する。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の認定こども園や小中高校、南伊豆町社会福祉協議会等、地域の社会資源と連携した取り組みを行うことにより、地域に開かれた施設運営を行う。 <p>(4)一億総活躍社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに導入されたストレスチェック制度や衛生委員会を有効活用することで、職員のメンタルヘルス対策を実施し、健康で安全に働ける職 | <ul style="list-style-type: none"> 5月9日に職業倫理等についての研修開催 各種会議の開催状況は、特養の事業報告7ページに記載の定例会議・行事による。 各部門において、年間を通じて取り組んだ部門目標等について、3月6日に施設内研修で発表を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェとして「寄り処カフェみなと」の開設に協力し、7月21日は当園管理栄養士による講話、11月17日は当園看護師による感染症対策についての講話を行った。 <ul style="list-style-type: none"> たん吸引・経管栄養の必要なご利用者の受入れ体制の確立のため、たん吸引等50時間研修を1名受講し1名修了した。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の社会資源と連携した取り組みについては、南伊豆東小学校の1、2年生36人が来訪し花笠音頭、手遊び、肩たたきなどを披露し、入所者30名、デイ利用者20名と交流した。 <ul style="list-style-type: none"> 当施設のストレスチェック実施状況 実施期間 H28.11.21~28 対象者 61名 |

| | |
|---|---|
| <p>場環境を構築し、職員の離職率低下を目指す。また、各種ボランティアの受入れを積極的に行う。あわせて傾聴ボランティア養成講座の企画・運営を行うことで、地域の中でより多くの方々が活動できる場所を提供し、一億総活躍社会の実現に寄与する。</p> <p>2.イメージ戦略に基づいた人材確保等</p> <p>(1)労働力の質と量の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3階浴室改修工事を推進し、職員の腰痛予防と業務効率化を図ることで、職員の業務負担軽減と人員の定着化に努めるとともに適正な人員配置を行う。 <p>また、年間計画に基づいた施設内研修やケアスタッフ勉強会にて褥瘡予防、危険予知訓練（KYT）等、適切なケアが行えるような訓練を実施する。あわせて、医行為（たん吸引等 50 時間研修：年間2名）、介護福祉士（介護経験3年以上の者）等、資格者養成の支援等を積極的に行う。</p> <p>(2)若年者の離職防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人及び中堅職員の OJT 計画に基づいた、きめ細やかな教育訓練を実施することで若年者の離職を防止するとともに、ノー残業デイや有給休暇の取得促進等、十分に疲れが取れるような働き方を推進するとともにキャリアパスの明確化、ストレスチェックの実施など、若年者に対する総合的な支援を行うことで、離職の防止に努める。 <p>また、定期的な面接の実施により、各職員の希望や悩みを早期に発見するように努める。</p> <p>(3)『みなとの園』独自の広報戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部署において、広報誌（特養は年2回以上発行）・お便り等の充実（内容・回数）を図り、特養・デイ等の役割、施設の取り組み、利用者の様子や行事等さまざまな情報発信を積極的に行う。あわせて、SNS を活用した情報発信を行 | <p>結果 高ストレス者が最も多い施設 医師との面接希望なし 体調不良、欠勤者もいない</p> <p>引き続き衛生委員会で環境評価を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾聴ボランティア養成講座を9月3日、10日に開催し、22名の参加を得、10月から10名を超えるボランティアが活動を行った。 ・9月1日から3階浴室にリフト浴を導入し、勉強会を実施後、安全な活用を行い、職員の腰痛予防、業務負担軽減を図ることができた。 ・資格養成支援の結果は以下のとおりです。 ・たん吸引等50時間研修：1名 ・認知症ケア専門士：1名 ・介護福祉士：1名 その他、外部研修等に参加することで、職員の質の向上に努めた。 ・介護技術・知識の習得、活用之际し、マンツーマン指導、4施設共通のスキルチェックシートを使用し、評価・フィードバックを繰り返すことで職員のスキルアップにつなげることができた。 新人1名、中堅職員（正職B）1名 ・広報誌の発行については、特養では年3回の発行を行った。 ・デイは、毎月1回広報誌を発行し利用者の様子や行事等の情報を発信した。 |
|---|---|

| | |
|--|--|
| <p>うことにより、いつでもどこでも「みなとの園」の最新情報に触れられる環境を提供する。</p> <p>(4)生活困窮者等への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社協との連携のもと、生活困窮者に関する研修会に参加するなどして生活困窮者への対応方法を学び、就労体験等の受入れを積極的に行う。 <p>また、障がい者や外国人労働者など多様な職員が安心・安全に働ける支援体制と職場環境を整える。</p> <p>3.各拠点施設の経営維持と財務強化</p> <p>(1)加算取得等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27年4月の報酬改定による収入減を補うため、適正な人員配置などにより加算取得を推進する。 <p>デイサービスにおいては、認知症加算、個別機能訓練加算の取得を目指し、あわせて定員枠・営業日を見直し、特色のあるサービス提供により、収益の改善を図る。</p> <p>また、訪問介護サービスにおいては、総合事業導入による収益構造の変化への対応（介護保険利用者の拡大等）を図る。あわせて、配食サービスにおいては利用者獲得を目指し、居宅事業所向け試食会を開催する。</p> <p>(2)数値目標の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス拠点区分毎に数値目標を設定し、安定した稼働率の確保を目指すとともに、部門間の連携を強化して、数値目標を達成する。なお、短期入所については平均稼働率 92.5%超を目指し転床・長期入所を含めたベッドコントロールの強化を行う。 <p>(3)全職員による経費節減の共通理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な経費節減目標（当初予算の事務費・ | <ul style="list-style-type: none"> ・5月13日、下田市社協主催の生活困窮者自立支援制度研修会に2名の職員が参加し、生活困窮者自立支援制度に理解を深めた。 ・南伊豆町社協が生活困窮者自立支援事業の一環として実施した学習支援事業「子ども学習アシスト教室」夏休み期間中12日間、冬休み期間中4日間の場所の提供に協力した。 <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスにおいては、認知症加算、個別機能訓練加算の取得はできなかったが、前年度月平均361名から405名に急上昇し収益の改善を図ることができた。また、営業日も月曜日から金曜日に変更し、人件費の抑制も図ることができた。 ・訪問の総合事業導入による収益構造の変化については、委託事業が終了しても、介護・予防利用者が増加し、200万円以上増加した。 ・配食サービスにおいては利用者獲得を目指し、居宅事業所向け試食会を5月21日に開催し32名の参加を得た。当日の事業説明、配食のお弁当については高評価をいただいた。 ・毎月、各部署の実績を取りまとめ、施設長会議で報告しているが、平成28年度（年間）の実績は以下の通りとなった。 特養：目標稼働率 99.0%→結果 99.1% 短期：目標稼働率 92.5%→結果 89% 通所：目標利用者 400名/月→405名/月 訪問：目標 200万円/月→結果 225万円/月 短期以外は目標を達成した。 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な経費節減目標として、ペーパータオル、 |
|--|--|

介護老人福祉施設 太陽の里 平成 28 年度 事業進捗状況

| 事業計画 | 進捗状況 |
|--|---|
| <p>1、新たな社会福祉法人の在り方</p> <p>(1) 社会貢献・地域貢献活動の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉事業(西伊豆町福祉大会)への参加と地域行事(地域のまつり・部落のまつり)の参加及び町内清掃ボランティア等への参加を積極的に行い、地域とのつながりを強化する。 ・民生委員・老人クラブ等の会合に積極的に出席し、地域の福祉・介護ニーズを把握し、新たなサービスを模索する。 ・学校や各種団体からの要望により、職場体験学習、実習生、学生・地域のボランティアを受け入れるとともに、介護に関する相談を積極的に受け付ける。 ・西伊豆町地域包括支援センター運営協議会委員として活動し、地域包括ケアシステム構築に寄与する。 <p>(2) 内部統制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施する研修会や各委員会及び訓練等の中で倫理・法令遵守の啓発及び感染症・介護事故・交通事故の発生予防並びに防災意識を高める。 ・各部門(6 部門)で設定した部門目標の取り組みを施設内研修で発表するとともに、毎月の施設内研修にて介護への思いをスタッフが発表し合うことで、サービスの質の向上に繋げる。 <p>(3) 主体性・独自性を維持し自律的経営を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医および居宅介護支援事業所との連携を密に行い、短期ご利用者の看取り介護体制の充実にて、地域及びご家族のニーズに対応できる体制を整える。 ・喀痰吸引・経管栄養(胃瘻)の必要なご利用者の受け入れ体制を充実化することで、幅広くご利用者に安心と安全を提供する。 | <p>1、(1)</p> <p>ご利用者は様々な地域行事に参加するとともに、職員は地域貢献として海岸清掃作業や保育園・子供の会の行事への参加また、地域の介護事業所と共に街頭募金等を積極的に行い、ご利用者及び職員は地域社会の一員である事を深めることができた。また、ボランティア、民生委員等の交流の中で、介護の相談等を受け入れ、在宅サービスや入居利用につながり地域の安心となっている。</p> <p>職場体験や実習生受け入れに関しては、松崎高校生のみであったため、今後地域の人材を育む意味でも、地域の学校に積極的に受け入れのアピールをしていく必要がある。</p> <p>1、(2)</p> <p>施設内外の研修計画に沿っての研修の実施やケアスタッフが責任として開催する委員会会議また、事故の振り返りを都度したことにより、介護事故の大きな減少を確認した。また、部門毎に勉強会を重ねることで、知識・技術の向上及びサービスの質向上となっている。</p> <p>1、(3)</p> <p>ご家族の介護力不足から居宅ケアマネやかかりつけ医と連携の中で短期ご利用者1名の看取り介護を実施し地域へ安心を提供している。今後更に増大するであろう独居や老老介護者の看取り介護の受け入れを検討していく。</p> <p>痰吸引等、医療ニーズのあるご利用者の入所が多くなっている背景を踏まえ、第二号研修受講を計画的に行い、地域の安心と安全を目指す。現在4名のケアスタッフが第二号研修修了者である。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>(4) 一億総活躍社会の実現</p> <p>ストレスチェックの結果や衛生推進委員会の実施により、職員のメンタルヘルス対策を実施し、心身共に健康で働ける職場環境にて離職率低下を目指す。また、短時間労働等の受け入れを検討し、一億総活躍社会の実現に寄与する。</p> <p>2、イメージ戦略に基づいた人材確保</p> <p>(1) 労働力の質と量の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生推進委員会（毎月実施）にて、継続的に職員の腰痛予防対策の取り組みを行い、業務負担軽減化と職員の定着化を図る。 施設内研修や部門勉強会、また、喀痰吸引50時間研修（年2名受講）、認知症介護実践者研修等の資格受講の支援を積極的に行う。 <p>(2) 若年者の離職防止</p> <p>適正な人員配置により残業の軽減、有給休暇の取得促進等、いきいきと働ける環境を作るとともに、ストレスチェックおよび、定期的な面接を実施し、各職員の希望や悩みを早期に発見するように努める。</p> <p>(3) 広報戦略</p> <p>各事業において広報誌の内容・回数(特養は年4回・短期は年6回・通所は年12回)を充実し、施設の役割や取り組み等の情報発信を行う。また、納涼祭（8月）、ボランティア交流会（6月）、ご家族交流会（10月）等の実施にて施設の活動をPRする。</p> <p>3、各拠点施設の経営維持と財務強化</p> <p>(1) 数値目標の管理と執行</p> <p>数値目標を設定し稼働率の確保を目指す。特養</p> | <p>1、(4)</p> <p>スタッフのメンタルヘルス対策として定期的な面接を実施することで、スタッフの安心となることは確認できる。11月に実施したストレスチェックの結果を踏まえ、29年度は施設でできることを検討していく。</p> <p>2、(1)</p> <p>衛生推進委員会にて、看護師が中心となり腰痛に関するアンケートとして「業務を行う時に意識して気をつけていること」や「腰痛予防のために自分自身が行うべきこと」について定期的にアンケートを実施したことが、腰痛に対する意識となり悪化予防となっている。次年度は抱えない介護への取り組みを強化していく。</p> <p>施設内研修や部門勉強会は計画どおりの実行となるが、喀痰吸引50時間研修については実行まで至らなかった。認知症実践者研修については1名受講し、介護に生かしていけると期待できる。</p> <p>2、(2)</p> <p>適正な人員配置までは至らないまでも、有給休暇の取得促進を実行したことにより、スタッフの安心にはなっている。11月に実施したストレスチェックの結果を踏まえ29年度は施設でできる事を検討していく。</p> <p>2、(3)</p> <p>計画どおりの実行となる。その事が施設とご家族の情報共有となるとともに、地域に施設は社会資源であることの位置づけとなっている。</p> <p>3、(1)</p> <p>ベットコントロールを適切に行った結果として、</p> |
|--|--|

においては、空床を短期利用に行うためのベッドコントロールにて特養・短期合計で100%の稼働を維持する。また、通所においては西伊豆町で平成29年度4月から実施される「介護予防・日常生活支援総合事業」へ円滑な移行のため、30名定員への変更も視野に、地域のニーズに柔軟に対応できる準備を整える。

(2) 全職員における経費削減の共通理解

経費節減のために具体的目標をたて、水道光熱費や消耗品の使用状況を意識づけするために、実績データを各職員に開示するとともに、物品の使用方法を各部門で検討することで経費節減に努める。また、備品・物品等の扱いを適切にすることで急な出費とならないように努める。

特養は96.5%、短期は104.8%の稼働となる。一年毎にご利用者のサービスの利用ニーズの変更を踏まえ、地域のご利用者の把握を行い稼働につなげていく。通所においては、30名定員の変更までは至らなかったが、「介護予防・日常生活支援総合事業」へ移行の準備は整備できた。

3、(2)

電気使用量や物品の管理及び使用状況の把握を事務の部門目標に設定し、設定した内容を実行した。全スタッフの経費削減の意識は高いが、電気量においては暑さ・寒さが続く、また、相模原障害施設での事件を踏まえ、すべての外灯を点灯した事が平成27年度に比較してプラスとなるが、電気料金については、料金単価の変動によりマイナスの結果となる。

電気使用料

28年度 224,962kwh

27年度 219,962kwh +5,000kwh

電気金額

28年度 3,925,051円

27年度 4,444,601円 +519,550円

オムツについては、個別ケアを意識し見直しを重ねたものの、入退所により変動した事もあり使用料金がプラスとなった。

オムツ使用料

28年度 3,368,529円

27年度 2,869,890円 +498,639円

物品については在庫表を作成し週1回確認した事により必要以上の物品を抱えることもなく、また、整理整頓もしっかりできるようになった。

平成28年度 介護老人福祉施設みくらの里 事業進捗状況

| 運 営 目 標 | 進 捗 状 況 |
|--|---|
| <p>1.新たな社会福祉法人の在り方 (1) 公益性の更なる追及 ・一億総活躍社会実現のため、生活困窮者支援への取り組みを推進することを目的に、窓口である県や地域の社会福祉協議会との連携促進を図る。また、生活困窮者支援について、職場内での理解を深め。実際に受け入れが出来るように先駆的取組を行っている事業者等から情報収集を行う。</p> <p>(2) 社会・地域への貢献 ・市内をはじめとする地域の方が集う場として、みくらの里まつりを開催し、地元の学生等を含めたボランティアの協力を得ながら、地域とのつながりをより強固にする。 ・在宅医療ネットワークへ積極的に参加を行い、近隣医療・機関との連携を密にし、地域包括ケアシステムの実現に向けて地域での役割を果たせるよう取り組んでいく。 ・施設利用者のご家族を中心とした家族交流会を開催し、施設の取り組み紹介を積極的に行う。また、地域や年代的なニーズに沿った内容の講演・勉強会を企画する。</p> <p>(3) ガバナンスの強化 ・ケアプランセンター主導のもと、各事業での加算要件のチェック体制がより強固になるよう研修を行い、請求ミスを未然に防ぐ取り組みを行う。 ・「Sアミーゴ川崎幸町」の事件等から、今後さらに介護サービスの透明性や質の担保が求められると思われるため介護事故や虐待防止、感染症の拡散防止についての取り組みを実施するとともに、社会福祉法人を正しく理解してもらえるように情報発信を行う。</p> <p>2.イメージ戦略に基づいた人材確保・定着・育成 (1) サービスの質の向上 ・「ミツケルアート」や認知機能に働きかけるリハビリテーション機器等の活用を検討し、サービスの差別化を図れるような取り組みを行う。</p> <p>・ユニットリーダー研修施設としての個別ケアの更なる充実を図るため、食生活に関する部分を重点課題に位置づけた取り組みを行う。</p> | <p>・下田市社会福祉協議会で取り組まれている、生活困窮者自立支援事業の子どもの学習支援事業について、平成 29 年度より会場の提供を行う。</p> <p>・平成 28 年 10 月 16 日みくらの里まつりを開催し、1000 人以上の方にお越しいただいた。又、(仮) エクレシアの創設に関連し、杉並区の阿波おどり団体を招聘し交流を図った。 ・ネットワークへの参加を継続し、関連の会議・研修会に積極的に参加を行った。</p> <p>・家族交流会を2度開催した。第1回は、健康食ビュッフェと講師を招いての健康と食事についての講演。第2回目は、マグロ解体ショーと施設の取り組み報告会を実施した。</p> <p>・ケアプランセンター主催にて加算についての研修会を年3回開催し、各事業担当者が注意点等について確認を行った。 ・施設内研修にて法令遵守・職業倫理についての研修を実施し、事故防止・身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回実施した。 又、感染症の流行時期には、マスクの着用手指の消毒徹底をご家族・ご面会者にご協力いただいた。</p> <p>・目標にあったミツケルアートの導入までは行えなかったが、学習療法については受入可能枠まで受入が行えている。 カラオケ機器 DAM の導入し、リハビリ体操のコンテンツ等活用している。</p> <p>・ユニットケアの充実を図る為、ユニットでの盛り付けの範囲を増やし研修施設として12名の受け入れを行った。 又、受け入れ時には各担当ユニットリーダーも意見交換会に参加し、研修生からの意見をユニット運営に反映した。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>・ユニットリーダー研修実地研修施設として、研修生の受け入れを行い、研修生養成を通じて職員のスキルアップを図る。</p> <p>(2) 人材育成と研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護キャリア段位制度を有効活用として、新人や中堅職員のスキルチェックを実施し、スキルアップはもとより常勤登用やリーダーへのステップアップの基準作りを検討する。 <p>(3) 働きやすい職場作りと働く女性の子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット等の次世代技術を学び、利用者や介護職の負担軽減について研究を行うことで、様々な年代の方が働きやすい施設を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェック制度を有効活用し、職員のメンタルヘルスケアの向上について衛生委員会で検討を行う。 <p>3.各拠点施設の経営維持と財務強化</p> <p>(1) 加算取得の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度動向についての情報取得に努め、新たな加算への備えを行っていく。また、在宅部門で大きく変化のある日常生活支援総合事業について、自治体の運用状況について注視するとともに、その対応について準備を行う。 <p>(2) 数値目標の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業ごとに数値目標を達成出来るよう、稼働率の安定化に努め、感染症等による受入制限等を起こさぬように管理する。 <p>(3) 全職員による経費節減の共通理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄委員会と事務が、排泄用品の使用量削減について一緒に取り組むことで、効果的な経費削減を目指す。 ・みくらの里開設から11年が経過し、一部の設備が更新時期を迎えていることから、優先順位をつけて、利用者・入居者に影響のある所から設備の補修を行っていく。特に、給湯機器については、年度内に更新出来るように計画する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護キャリア段位制度で用いられるスキルチェックを中堅職員に実施し、今後の人事考課等への反映を検討した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ロボットスーツハルを導入し、施設内研修等で活用状況について発表を行った。又、平成29年度静岡県老協研究大会にて有効活用について発表予定。 <ul style="list-style-type: none"> ・職員に対しストレスチェックを実施し、施設職員のストレス状況を確認し、メンタルヘルスケアについて衛生委員会にて産業医を交え検討を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな加算の取得は出来なかったが、次年度の加算取得に向けて、関係部門にて共通目標とした。日常生活支援総合事業については、研修を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・感染症による受入制限等は無かったが、骨折での入院や原因不明での長期入院あり入院日数だけで目標での月平均20床以上の空床となった。年間99.2%の達成もできなかった。細部を詰めて次年度は、達成としたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・排泄委員会を中心に、介護備品や反復購入品の見直し・在庫管理の徹底を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・随時に設備の補修・修繕を行った。給湯機器については、大きなトラブル無く安定稼働していた為、今季の更新は見送りとした。今年度、再度点検等を行い専門家と協議を行う。 |
|--|---|

小規模多機能型居宅介護 みくらの里

平成28年度 事業進捗状況

| 平成28年度事業計画 | 進捗状況 |
|--|---|
| <p>1.新たな社会福祉法人の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に開かれたサービス提供のため、2カ月に1回開催される運営推進会議を活用し、活動状況の報告、事業所の評価、必要な要望・助言等について協議し、サービス向上に資するよう取組みを行う。 社会福祉法人の地域貢献活動の取組みとして、高齢者の経験を生かした地域住民の集いの場となるように、毎月1回地域交流スペースを開放し、集い事業を開催する。事業を実施するために、地域の社会資源と協働・連携して推進する。 <p>2.イメージ戦略に基づいた人材確保・定着育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護サービスの質を高めるケアの実践として、具体的には、利用者一人一人の担当制を実施し、利用者の「～したい」という自己実現を尊重したかわり、実践した内容をミーティングで振り返る対応の実践により、働き甲斐のある職場環境を目指す。 人材育成の充実を図る取組みとして、職員の研修計画を作成し、研修を受ける機会を確保する。また、各職員の勉強したいテーマに沿った勉強会を実施する。 <p>3.各拠点施設の経営維持と財務強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院、居宅介護支援事業所、市と連携し、事業所の数値目標（案）の登録人数を達成することにより、安定的経営に貢献する。 広報戦略見直しの一環として、新しくリーフレットを作成、活用し、利用登録者の拡大を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 本年度の運営推進会議の開催状況は次のとおりです。 6月13日、9月21日、11月10日、12月8日、2月15日の計5回開催。 事業所の評価については次回の運営推進会議で実施予定。 地域交流スペースを活用した地域貢献活動の取組みである「健康プラザみくら」の開催については6月から事業を開始し、開催状況は次のとおりです。 6月27日から翌年3月27日までに9回開催。 8月27日には、ケアプランセンターみくら、みくらの里と連携してほのぼの納涼祭を開催し、地域の児童・生徒の参加を得た。また、10月16日には、隣接するみくらの里まつりに参加した。 スキルチェックの実施については、8月に2名の職員を選定し、途中11月に1名を加えて3名のスキルチェックを本年1月から開始し3月末現在も継続中です。 利用者の自己実現については、全国小規模多機能型居宅介護事業所連絡会独自のケアプラン様式を取り入れ、随時のプラン変更を行った。 職員の研修計画を作成し、7名の職員がスキルアップにつなげる外部研修、多職種連携、自立支援型ケアマネジメント、安全・安心のトランスファーなどに参加した。 勉強会については、感染予防、吐物処理、小規模多機能型居宅介護とは、認知症、身体拘束廃止についての5回を開催した。 数値目標29名の登録人数に対して月平均の登録者数は80.7%であった。 本年度の新規登録者数は12名で病院からの紹介が2名、居宅介護支援事業所からは8名であった。 パンフレット500部の増刷を50,200円で行い新規利用者及び事業所の啓発に使用した。 |